

3. 鳥類調査



オシドリ (カモ科)



マガモ (カモ科)



アオバト (ハト科)



ダイサギ (サギ科)



コチドリ (チドリ科)



ハチクマ (タカ科)



トビ (タカ科)



サシバ (タカ科)



サシバ (タカ科)



サンショウクイ (サンショウクイ科)



ヤマガラ (シジュウカラ科)



コサメビタキ (ヒタキ科)



オオルリ (ヒタキ科)



ハクセキレイ (セキレイ科)



マヒワ (アトリ科)



ノジコ (ホオジロ科)

(1) 調査目的・背景

魚沼市の野鳥調査は2012年度に開始した。

この年、合併以前の旧町村時代からの旧北魚沼地域理科教育センター(現魚沼市理科教育センター)の調査記録、小出野鳥の会の観察記録の他、関係機関や野鳥愛好者からの幅広い情報提供をもとに、当時、小出野鳥の会会長であった故柳瀬昭彦氏がまとめた魚沼市の鳥類目録を提供していただき、2012年度魚沼市自然環境保全調査報告書に掲載した。

この目録によると魚沼市の里山から山岳地帯で204種の観察記録がある。

以後、定点観察による変化の確認や、過去の観察記録との検証を目的に、魚沼市の里山を中心とした鳥類相の調査を行っている。

同じ地点を同じ時期に定点観察することで様々な変化の分析が可能となるため、2017年度、2018年度ともに、定点観察地として夏鳥1か所、冬鳥1か所、計2か所を定点観察調査地とし、魚沼市の広大な自然で生息している留鳥、渡り鳥の調査を検証すべく新規の調査箇所をそれぞれ2か所選定し調査した。

(2) 調査地域の位置

調査地は、定点観察地として、夏鳥調査を御嶽山鳥獣保護区(大石)の杉ノ入沢で、冬鳥調査を旧小出町の青島と大浦新田を中心とした魚野川周辺で調査を実施した。

また、2017年度は魚野地、銀山平で、2018年度は竜光小芋川、福山新田で夏鳥調査を実施した。

1) 杉ノ入沢(定点箇所)

旧堀之内町大石に位置する御嶽山に程近い地域である。東経138度56分、北緯37度13分に位置し、杉林に囲まれた沢沿いの道を踏査した。

2) 魚野地(2017年度新規箇所)

概ね東経138度53分、北緯37度12分付近に位置する、田河川の支流魚野地川沿いの魚野地集落から林道沿いにかなり上流域まで入った。位置的には、杉の入沢の左岸川背中合わせに位置している。

右岸側は、魚野川の河岸段丘が広がっており、堀之内の百合栽培畑が広がっている。

魚野地川は、比較的平坦な地形であるため林道も川沿いに左岸、右岸と橋を渡りながら、兩岸を観察でき、広葉樹が大半で杉林も適度にあり、野鳥の生息環境としても、適地と推測し、調査地に選定した。

3) 銀山平 (2017年度新規箇所)

概ね東経139度8分、北緯37度8分付近に位置する標高790mから800mの阿賀野川水系の支流、北ノ又川の河岸段丘が広がる平坦地で駒ヶ岳、荒沢岳の山岳地に抱かれた高原平坦地である。

北ノ又川は、永久禁漁区に指定された河川であり、清流沿いの河岸林は野生動物の豊かな生態系の源となっている。

平坦地の中ほどに銀山平温泉があり、6軒の民宿と18棟のログハウスがある観光スポットも含まれる場所である。

山裾はブナの2次林、平坦地は、毎年5mから6mの豪雪地のため、様々な樹種の灌木林でブナの2次林になるには相当の時間を要する。

南側斜面には、国有林の樹齢40年から50年程の杉の人工林があるが、豪雪地のため、生育が悪く、広葉樹と混成林になりつつある。

渡りの鳥は5月末から6月初旬に渡ってくる。

奥只見湖周辺の山岳地帯は猛禽類の生息密度が高いと言われている地域でもあり、この調査地を選定した理由である。

4) 魚野川周辺 (定点箇所)

旧小出町の大浦新田付近と新柳生橋の2か所を中心に定点観察を行った。大浦新田は東経138度11分、北緯37度11分付近に位置し、梅田養魚場周辺での観察を行った。新柳生橋は、東経138度57分、北緯37度13分付近に位置し、橋の上から魚野川周辺の観察を行った。

5) 竜光小芋川 (2018年度新規箇所)

概ね東経138度55分、北緯37度17分付近に位置する、竜光地区で魚野川に合流する芋川の支流で、右岸側の尾根を越えると芋川沢であり、オキナグサの生息する大芋川集落と近い位置にある。

沢沿いに無数の池があり、特徴的な地形の場所である。

広葉樹の雑木林がほとんどで、里山の典型的な場所である。野鳥の生息環境にも適地と思われ、調査地とした。

6) 福山新田 (2018年度新規箇所)

この地域は、標高約500m位の山に囲まれた盆地で、東経138度59分、北緯37度21分付近に位置し、かつては60ヘクタールの水田が開拓され、集落も100軒を超えていた。

しかし、過疎化が進み、集落の山裾や沢筋は、耕作放棄地が急増している。

この地区は植生も豊かで、チョウ、トンボなど昆虫類の生息環境が良好である。ため池、沢筋の休耕田、耕作放棄地や小川など、植物や昆虫の生息環境が良好のため、野鳥の生息環境にも適地と推定し、調査地に選定した。

また、魚沼市自然環境保全条例に基づき、ギフチョウの保護重点地区に指定され、生息状況調査地として、実態調査を実施した。

(3) 調査方法

調査は、市民参加の探鳥会を兼ねて実施した。

調査員及び探鳥会講師を小出野鳥の会に依頼し、各探鳥会に調査員を2名配置し、調査と併せて、参加者への指導を行った。

第1回杉ノ入沢探鳥会は、魚沼地域振興局健康福祉部(魚沼保健所)の支援を受け、魚沼・小千谷地域理科教育センターからは、双眼鏡、資料等借用、当日の指導についてご協力いただいた。

夏鳥・留鳥の繁殖時期にあたる5月に3回と、冬鳥・留鳥の越冬時期にあたる2月に1回の計4回実施した。夏鳥調査は6時30分から10時00分間の3～4時間、冬鳥調査は9時00分から11時30分間の約2時間30分行った。

調査方法はライセンス法、定点記録法を用いて、予め指定したルートを踏査し、目視と鳴き声で同定を行った。

なお、本調査は、夜行性鳥類(フクロウ、ヨタカ等)タカの渡に関する調査は含まない。

毎回、開催日ごとに市報等で市民ボランティアを募り市民参加で実施している。

市民の参加者は野鳥の会会員や一般市民からも参加者があり、4回の延べ参加人数は2017年度が90名、2018年度が98名であった。

2017年度、2018年度ともに理科教育センターの先生方は毎回参加していただき、小出野鳥の会の講師の方も担当地区以外の調査箇所にもボランティアで参加いただきご指導いただいた。その他にも野鳥の会のメンバーで専門知識をお持ちの参加者もおられ、ご協力いただいた。

近年は、市外からの参加者も受け入れている。

(4) 調査日時と調査員

各調査地の調査日時、調査員及び参加者は下記のとおりである。

1) 杉ノ入沢

2017年度 5月7日(日) 6:00～11:00 調査員：桑原和寿、角屋禮士

探鳥会参加人数：31名

(魚沼地域振興局健康福祉部、魚沼・小千谷地域理科教育センターと合同)

- 2018年度 5月6日(日) 6:00～11:00 調査員：桑原和寿、角屋禮士
探鳥会参加人数：33名
(魚沼地域振興局健康福祉部、魚沼市理科教育センターと合同)
- 2) 魚野地
2017年度 5月14日(日) 6:00～11:00 調査員：桑原和寿、佐藤 武
探鳥会参加人数：20名
- 3) 銀山平
2017年度 5月21日(日) 5:30～11:00 調査員：桑原和寿、桑原哲哉
探鳥会参加人数：23名
- 4) 魚野川周辺
2017年度 2月18日(日) 9:00～11:30 調査員：桑原和寿、桑原哲哉
探鳥会参加人数：16名
2018年度 2月17日(日) 9:00～11:30 調査員：桑原和寿、桑原哲哉
探鳥会参加人数：18名
- 5) 竜光小芋川
2018年度 5月13日(日) 6:30～11:00 調査員：桑原和寿、佐藤 武
探鳥会参加人数：25名
- 6) 福山新田
2018年度 5月20日(日) 7:00～11:30 調査員：桑原和寿、桑原哲哉
探鳥会参加人数：22名

(5) 調査結果

1) 鳥類確認種数

2017年度調査での確認種数は、32科64種、2018年度調査での確認種数は32科63種であった。調査結果は、別表調査鳥類目録に示す。目録の科名、種名、学名及び並び順は「日本鳥類目録改訂第7版掲載鳥類リスト」(日本鳥学会 2012年)によった。

2) 確認された絶滅危惧種等

2017年度調査で確認されたレッドリスト掲載種は、新潟県指定準絶滅危惧種、環境省指定絶滅危惧Ⅱ類のサシバ、サンショウクイ、新潟県、環境省ともに準絶滅危惧種に指

定されているハチクマ、オオタカ、ノジコ、新潟県指定準絶滅危惧種で環境省情報不足とされているオシドリ、新潟県指定準絶滅危惧種のイカルチドリ、コサメビタキの6科8種であった。

2018年度調査で確認されたレッドリスト掲載種は、新潟県指定準絶滅危惧種、環境省指定絶滅危惧Ⅱ類のサシバ、サンショウクイ、新潟県、環境省ともに準絶滅危惧種に指定されているハチクマ、ノジコ、新潟県指定準絶滅危惧種のイカルチドリ、コサメビタキの5科6種であった。

2016年度のレッドリスト掲載種の確認は9科11種であり、それと比べるとレッドリスト掲載種が減少した。

主に冬鳥の調査地環境の変更と悪天候が、大きく影響したものと考えられる。

3) 調査開始時から

鳥類調査を2012年度から魚沼市が自然環境保全調査の一環として、野鳥の調査を始めてから、夏鳥と冬鳥の定点観察地3か所、魚沼市の野鳥の生息環境敵地と思われる調査地点を、2018年までに、10か所選定し調査した。結果、定点観察地点を含め、毎年30科60種から33科67種までの範囲で、環境省・新潟県のレッドリスト掲載種は、4科6種から9科11種（2016年度）までの範囲で毎年確認されている。

過去の魚沼市(町村合併合併以前から)の確認目録では、204種が確認されており、引き続きこの確認調査が望まれる。

※ 調査対象外ではあるが、平成29年10月7日魚沼市四日町で、夕方コウノトリが電柱にとまっていたのを、小出野鳥の会会員が発見、その後コウノトリは小出駅の裏魚野川に移動したところを、小出野鳥の会会員が写真撮影に成功した。魚沼市では初めて確認された。8日には堀之内明神地区の魚野川で餌をとっているところが観察された。その後1週間くらい南魚沼市を含め観察されている。

このことは、本調査においても、大きなニュースとして記載し、記録にとどめることとした。

(6) 2017年度・2018年度鳥類調査の評価と今後の展望

魚沼市自然環境保全調査委員会委員

小出野鳥の会 桑原和寿

①鳥類生息状況の概要

2017年度、2018年度の鳥類調査は5月に繁殖期に入る夏鳥を主に対象とした調査を各3回、2月にカモ類など水辺の冬鳥を中心とした調査を各1回計画した。

このうち5月の1回を2年とも継続調査地の杉ノ入沢での調査とした。この場所は谷の両側が急な斜面で、スギ、ブナ、ナラ、ホオノキなどの針広混交林となり、谷底を川が流れる魚沼各地の里山に多く見られるような環境で、生息する鳥類の種類も数も安定して多い。

2月は毎年小出地区の魚野川とその周辺を調査している。調査可能な場所が限られる時期の中で、カモ類や冬の小鳥類を養魚場の池や橋の上から観察した。小出地区を流れる魚野川は、流れの緩急、水深、中洲、兩岸の状態、他の川との合流など、橋の上から見渡せる範囲内でも環境が一様でなく、それぞれに適応した多くの鳥類が生息している。

5月に調査した杉ノ入沢以外の調査地は、環境的な特長があり、鳥類の生息について本調査の目的に沿った結果が期待できる場所を選定した。また地理的に偏りなく広く市内を調査することも考慮した。

2017年5月に調査した魚野地は、市の西部にあり、田河川の上流部の谷の両側の間が比較的広く開け、平らな地形が水田として利用されている環境である。ある程度の広い空間を必要とするサシバがよく観察できたほか、水の入られた田んぼなどにカルガモ、オシドリが見られた。

翌週5月21日に調査した銀山平は、森林公園を一回りするコースをとった。2012年の春にも同じ場所を調査したが、残雪や植物の芽吹きで状況が大きく変わるので2回目の調査を行った。前回は2012年6月24日であったが、そのときは比較的雪解けが遅かったため、1か月以上時期が違っても結果的に2回ともほぼ同様の種の鳥類が観察されている。

2018年5月に調査した竜光小芋川は、市の北西部で旧川口町、小千谷市との境に近く、川と崖による環境が特徴的で、ノジコの密度が高かった。

福山新田は、植物、昆虫の調査が完了済みで鳥類調査の要請もあったため実施した。比較的開けた台地の上のような地形で、小さな川や池もあり環境的なバラエティが広く、水辺や開けた場所で見られるイカルチドリ、コチドリ、ヒバリなどの鳥が観察された。

毎回の調査は、市民に参加を呼びかけ探鳥会（観察会）形式で行った。そのほか随時寄せられる観察情報も、広い面積を持つ魚沼市の鳥類の姿を把握するのに重要である。

②注目すべき鳥類など

2017年10月から11月にかけてと2018年2月から3月にかけて魚野川とその周辺にコウノトリが飛来した。千葉県野田市で2016年に試験放鳥された個体で、下越地方に長く滞在した後、信濃川・魚野川沿いに移動してきた。10月の魚野川ではアユ、ウグイなどを食べる様子が観察された。

2008年に佐渡で初めて放鳥されたトキが魚沼市へ飛来したのが積雪期だったが、サギ類も含め、水辺の鳥は雪が積もった中でも水路や水を入れている田んぼ等の場所で、エサとなる生物が雪を避けて密度が高くなっている状況を利用して効率よく採餌する姿が観察されている。

2016年から5年間をかけて全国鳥類繁殖分布調査が行われている。1970年代、1990年代に行われた調査結果と比較し、目立った増減の傾向として、小型の魚を食べるゴイサギ、ヤマセミなどが減少し、逆に大きな魚を食べるカワウ、ミサゴ、ダイサギなどの分布の拡大が見えてきている。市内の魚野川でもまさに同様の傾向が見られ、ゴイサギは10年以内で観察頻度が極端に少なくなり、魚野川での調査時にも観察されていない。ヤマセミについては餌とする大きさの魚の豊富さに加え、繁殖に適した巣穴が掘れる土質の高い崖という場所の両方がセットで存在する必要がある、安定した繁殖環境が限定されている。

増加の代表的な種として当市でもカワウがあげられる。魚野川で2004年まではほとんど見ることがなかったが、2005年以降は7月、8月を中心に100羽を超える大きな群れが飛来するようになった。増え始めた頃は夏場だけに集中し、冬には見られない状況であったが、その後は夏場に多い傾向は変わらないものの、徐々に年間通して定着するようになり、春の調査でも上空を通過する姿が各地で普通に見られている。カワウの季節的な移動については2005、2006年に新潟県野鳥愛護会が行った調査によると夏季に増えるのが魚沼地域、十日町地域など中・上流地域で、下流地域などでは逆に秋季や冬季に増える傾向にある事が確認されている。夏季の魚野川など魚沼の川には、アユをはじめとした魚が豊富なことが原因の一つとして考えられ、漁業への影響も無視できない状況になっている。

2018年の8月には魚野川でダイサギを中心に、コサギ



図 3-1 コウノトリ (コウノトリ科)



図 3-2 ゴイサギ (サギ科)



図 3-3 ヤマセミ (カワセミ科)



図 3-4 サギの群れ

とチュウサギが混じった50羽程度の群れが採餌している姿が何度か観察された。このような大きな群れの飛来は比較的珍しく、今後も継続するのか注目する必要がある。

このほかに全国的にオオバンが目立って分布を広げているという情報がある。魚沼市では以前、ほとんど観察がなかったオオバンは、この5年間ほど冬季の魚野川で複数の個体が岸付近のカモ類の群れの近くに安定して確認できるようになっている。

環境省及び新潟県の絶滅危惧種、準絶滅危惧種は、調査時にオシドリ、イカルチドリ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、サンショウクイ、コサメビタキ、ノジコが確認されている。そのほかにはカンムリカイツブリ、イソシギ、ミサゴ、オジロワシ、ツミ、ハイタカ、イヌワシ、クマタカ、アオバズク、アカショウビン、ヤマセミ、ハヤブサ、チゴモズなどについての観察情報があった。

既存の生態系や、在来種への影響の大きい外来の鳥類である、ワカケホンセイインコ、ソウシチョウ、ガビチョウ類は観察されなかった。

また、2018年春に市内各地で大発生したガの一種のオビカレハについては鳥類に明確な影響は確認されなかった。

③調査結果の評価と今後の展望

魚沼市自然環境保全調査における鳥類調査により、魚沼市内には幅広い自然環境に対応した多くの鳥類の生息が確認されている。よく言われる「魚沼は自然が豊か」がより具体的に何種類の鳥類がいるから、こんな珍しい種がいるから、生息数が多いからなどがデータに基づいて示せるようになってきている。

この豊かな自然の背景として、地勢的には西側に魚沼丘陵、北東部には守門岳と浅草岳、南部には越後三山など2000m級の山々とそこから流れる破間川、佐梨川などが合流する魚野川というダイナミックに変化する多くの要素が存在している。

さらに、これらの場所に特別豪雪地帯に指定される積雪の非常に多い気候に加え、夏場には盆地特有の高い気温などが加わり、多様な魚沼市の自然環境が作り出されている。

これらの自然環境に古くから人が関わって来た水田や山林、新しいものでは奥只見ダムをはじめとしたダム湖なども魚沼市の生物の多様性に関わりが深い。

今までに行われた鳥類調査では、広い面積を持つ魚沼市の中で地理的や周辺環境的に特徴のある調査地と、継続した同じ調査地での調査が組み合されている。

地理的な視点では、本調査の対象とされる市内各地の里地・里山環境を広く偏りなく調査を進めているが、市の北部（旧守門村、旧入広瀬村地域など）について未調査で残っているエリアがあるので、今後はそれらをカバーするように取り組みたい。

また蓄積された今までの各地での調査データについては、調査地の環境の特徴（例えば植生、河川、標高など）の分類と観察鳥類の関連性などの観点で整理してみるのも、広い面積と多様な環境を持つ魚沼市の特徴を生かせる一つの方法と考えられる。

継続した調査地での調査結果については、単に観察種だけでなく数や行動なども含めた時系列的な比較がしやすい内容とするのが望ましい。

さらにこれらの調査結果を他の地域、県、全国のデータなどとの比較をすることで、魚沼市の自然環境の特徴が見えてくる可能性もある。

毎回の調査は探鳥会（観察会）形式で、広く市民に参加を呼びかけて行っている。毎年春の夏鳥の繁殖期に3回程度、冬の水辺の鳥の調査を1回としているが、興味を持って野鳥を見てくれる人が増えるとともに、年間を通して寄せられる観察情報については、確度や種の同定につなげやすい特徴が的確に伝わってくるように感じられる。

一方で、調査により得られた知見などを親しみやすい形で市民をはじめ広く発信し、魚沼市の魅力を生かした今後の地域の発展に何かしら貢献できる方法も検討が必要と思われる。

調査で貴重なデータを残すとともに、身の回りの自然の豊かさについて野鳥を通して実感し、環境を大切に考える市民の輪が広がる事を今後の継続した調査に期待したい。

（7） 参考文献

- ・魚沼市環境課環境対策室 編 2012年「平成24年度魚沼市自然環境保全調査報告書」 魚沼市
- ・魚沼市環境課環境対策室 編 2013年「平成25年度魚沼市自然環境保全調査報告書」 魚沼市
- ・魚沼市環境課環境対策室 編 2014年「平成26年度魚沼市自然環境保全調査報告書」 魚沼市
- ・魚沼市環境課環境対策室 編 2016年「平成27年度平成28年度魚沼市自然環境保全調査報告書」 魚沼市
- ・新潟県環境生活部環境企画課 編 2001年 「レッドデータブックにいがた」
新潟県環境生活部環境企画課
- ・新潟県環境生活部環境企画課 編 2014年 「新潟県第2次レッドリスト 鳥類編」
新潟県県民環境生活部環境企画課
- ・日本鳥学会 2012年 「日本鳥類目録改訂第7版掲載鳥類リスト」 日本鳥学会
- ・叶内拓哉 ほか 2006年 「山溪ハンディ図鑑 日本の野鳥」 山と溪谷社
- ・叶内拓哉 2006年 「野鳥と木の実ハンドブック」 文一総合出版
- ・叶内拓哉 2008年 「絵解きで野鳥が識別出来る本」 文一総合出版
- ・北魚沼地区理科教育センター 1987年 「野鳥の種類と数は季節によってどのように変化するか」
北魚沼の自然と理科教育第14集 北魚沼地区理科教育センター
- ・柳瀬昭彦 1995年 「北魚沼郡の鳥類リスト（第2版）」 小出野鳥の会

（写真提供）

桑原和寿、角屋禮士、NPO法人 魚沼自然大学

2017年度・2018年度調査鳥類目録

合計確認種数		39科98種			◎		姿が確認できた種					
(2017年度)		32科64種			○		声だけが確認できた種					
(2018年度)		32科63種										
※この目録は、2012-2018年度に実施した魚沼市自然環境保全調査事業で確認された種を一覧にし、2017・2018年度の結果を記載した。			調査地	杉ノ入沢		魚野地	銀山平	高光小芋川	福山新田	魚野川		
			調査年	2017	2018	2017	2017	2018	2018	2018	2019	
			調査日	5/7	5/8	5/14	5/21	5/13	5/20	2/18	2/17	
No	科名	種名	学名									
1	キジ科	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		○	○						
2	カモ科	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>									
3		オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		◎		◎	◎				
4		オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>									
5		ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>								◎	◎
6		マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>								◎	◎
7		カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
8		ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>									◎
9		オナガガモ	<i>Anas acuta</i>									◎
10		コガモ	<i>Anas crecca</i>								◎	◎
11		ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>								◎	◎
12		キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>									◎
13		ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>									
14		カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>								◎	◎
15		カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>								◎
16	カンムリカイツブリ		<i>Podiceps cristatus</i>									
17	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		◎	◎	◎	◎	◎	◎		
18		アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		◎		◎		◎			
19		ドバト	<i>Columba livia</i>									
20	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>		◎	◎	◎		◎		◎	◎
21	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
22		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>								◎	◎
23	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus</i>									
24		オオバン	<i>Fulica atra</i>								◎	◎
25	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>									
26		ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>						◎	◎		
27		ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>				○					
28		カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>					○				
29	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>				◎					
30		アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>									
31	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>							◎	◎	◎
32		コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>							◎		
33	シギ科	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>									
34	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>									
35	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		◎					◎		
36		トビ	<i>Milvus migrans</i>		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
37		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>					◎				
38		サシバ	<i>Butastur indicus</i>		◎	◎	◎		◎	◎		
39		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>					◎			◎	◎
40		イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>									
41	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>										
42	フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>									
43	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>									
44		カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		◎		○			◎	◎	
45	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		◎	○	◎		◎	◎		
46		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>		◎	◎		◎				
47		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		○	◎		○	◎	○		
48	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>								◎	
49		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>									
50	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		◎	◎	◎		◎	◎		
51	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>			○						
52	モズ科	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>									
53		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		◎			○	◎	◎		◎
54	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>		◎	◎	◎	◎	◎			
55		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		◎	◎	◎				◎	◎
56		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※この目録は、2012-2018年度に実施した魚沼市自然環境保全調査事業で確認された種を一覧にし、2017・2018年度の結果を記載した。			調査地		杉ノ入沢		魚野地	銀山平	竜光小芋川	福山新田	魚野川	
			調査年		2017	2018	2017	2017	2018	2018	2018	2019
			調査日		5/7	5/8	5/14	5/21	5/13	5/20	2/18	2/17
No	科名	種名	学名									
57	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	◎	◎	◎		◎				
58		ヒガラ	<i>Periparus ater</i>									
59		シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	◎	◎	○	◎	○				
60	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>							◎		
61	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	◎	◎	◎	◎			◎		
62		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>							◎		
63	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
64	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	◎	○	○	◎	◎			
65		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○	○		○				
66	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	◎	◎	○	◎	◎	○			
67	ムシクイ科	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>									
68		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>									
69		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		◎	○				○		
70	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	◎	◎	○				○		
71	ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>					◎				
72	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>					◎				
73	ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>									
74	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>								◎	◎
75		コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>									
76	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>			◎	○	◎			◎	
77	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○	◎		◎				
78		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>									◎
79		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>									◎
80		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>									
81		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>									◎
82		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	◎		◎				◎		
83		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	◎	◎	◎	◎	○	○			
84	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	◎	◎	○	◎	◎					
85	スズメ科	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>					◎		◎		
86		スズメ	<i>Passer montanus</i>	◎	◎					◎	◎	◎
87	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎
88		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>		◎		◎				◎	◎
89		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>								◎	◎
90	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>									◎
91		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	◎	◎	◎	○	◎	◎			
92		イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>									
93		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>									◎
94	ホオジロ科	イカル	<i>Eophona personata</i>	◎	○			◎	◎			
95		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
96		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>									◎
97		ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	◎	◎	◎	◎	◎	○			
98		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	◎								
				◎: 姿が確認できた種	32種	28種	25種	21種	25種	26種	28種	27種
				○: 声のみ確認できた種	6種	6種	9種	7種	4種	6種	0種	1種
				合計	38種	34種	34種	28種	29種	32種	28種	28種

